

多収大豆新品種「そらみのり」の育成

全国のダイズの平均単収は159kg/10a（5年平均）で、米国やブラジルと比べて半分程度に低迷しています。農研機構 九州沖縄農業研究センターでは、大粒で粗タンパク含有率が高い「九州148号」と、小粒で収量の高い米国品種「Santee」との交配から、多収で豆腐に利用できる新品種「そらみのり」を育成しました。西日本の主力品種「フクユタカ」と比較して3割以上の多収が見込まれ、ダイズの安定生産と供給に貢献することが期待されます。

莢（さや）が多く、生産者ほ場における現地実証試験で多収

「そらみのり」の草姿

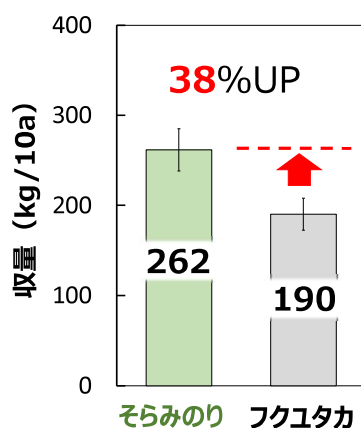


「そらみのり」の生産力試験結果（育成地）

調査地	九州沖縄農業研究センター（育成地・熊本県合志市）			
調査年次	2020年～2022年（3か年）			
栽培条件	普通畑標準播（7月上旬）		普通畑早播（6月中旬）	
項目／品種系統名	そらみのり	フクユタカ	そらみのり	フクユタカ
開花始期（月・日）	8.18	8.18	8.07	8.04
成熟期（月・日）	11.02	10.25	11.01	10.22
主茎長（cm）	66	60	84	77
最下着莢節位高（cm）	14.5	12.8	16.0	14.7
裂きようの難易 ¹⁾	難	易（中）	-	-
生育中の障害 ²⁾	倒伏	少～中（2.8）	中～多（3.1）	中～多（3.4）
	葉焼病	無～微（0.3）	少～中（2.7）	微（1.0）
子実重（kg/a）	39.3	28.9	37.6	30.7
同上対標準比（％）	136	100	123	100
百粒重（g）	25.0	25.7	24.5	27.6
粗タンパク含有率（％） ⁴⁾	43.0	43.4	43.6	44.1

- 「フクユタカ」は既往の評価では裂きようの難易は「中」だが、育成地での評価では「易」の評価となった。
- 生育中の障害程度は無（0）、微（1）、少（2）、中（3）、多（4）、甚（5）の6段階で評価。
- 子実成分は近赤外分析法による。乾物当たり百分率、窒素タンパク変換係数は6.25。

生産者ほ場における
現地実証試験



注）エラーバーは標準誤差を示す。

子実品質



加工適性試験

品種名	タンパク質含有率（％）	豆乳抽出率（％）	豆腐の硬さ（g/m ² ）
そらみのり	43.6	78.7	60.0
フクユタカ	43.4	79.2	75.3

注）第三者検定機関による結果。

「そらみのり」の子実

へその色は黄、粒の大きさは「フクユタカ」と同等で、タンパク質含有率も同等。

数社で豆腐試作試験を実施
豆腐に利用できると評価

多収品種群「そらシリーズ」

そらひびき

栽培適地：東北南部～北陸地域

そらたかく

栽培適地：東海～九州北部地域



そらみずき

栽培適地：関東～近畿地域

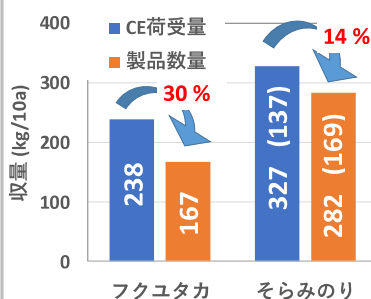
そらみのり

栽培適地：東海～九州地域

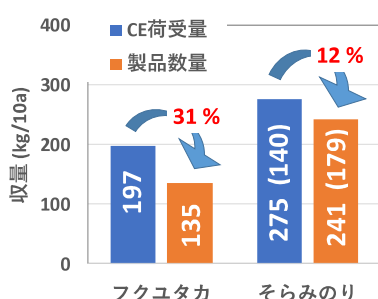
多収品種の全国普及を推進しています

熊本県における生産実績

2023年



2024年



2023～2024年の「そらみのり」の製品収量は、**7～8割多収**

熊本県大津町生産法人「そらみのり」作付面積
2023年 4.7 ha
2024年 10 haの「フクユタカ」作付面積
両年とも約100 ha

・CE（カンローエレベーター）
・グラフの括弧内の数字は「フクユタカ」対比の収量

謝辞 本研究課題は、農林水産省の「国際競争力強化技術開発プロ」の支援を受けて実施しています。